

2019年7月31日

各 位

一般社団法人 全国労働金庫協会

全国 13 労働金庫の 2018 年度決算概況について

全国 13 労働金庫の 2018 年度（平成 30 年度）決算概況をとりまとめましたので、下記のとおりお知らせいたします（以下の計数は特に断りのない限り、全国 13 労働金庫の合計値・平均値です）。

記

特徴点（要旨）

2018 年度の当期純利益は前年度比 45 億円増加（18.62%増）して 288 億円となりました。

（以下、増減は前年度または前年度末との比較）。

預金（譲渡性預金を含む。）は 6,355 億円増加（3.22%増）して 20 兆 3,612 億円、貸出金は 8,109 億円増加（6.36%増）して 13 兆 5,563 億円となりました。

自己資本比率は 0.48 ポイント低下して 10.06%となりました。

（注 1） 会計年度：2018 年 4 月 1 日～2019 年 3 月 31 日、計数は単体ベースのものです。

（注 2） 本文中の各表は添付資料をご参照ください。

1. 損益の状況（表 1）

資金運用収益は、有価証券利息配当金の増加等により 3 億円増加（0.13%増）となりました。一方、資金調達費用は、預金利息の減少等により 17 億円減少（12.77%減）となりました。

経費は、システム関連費用（事務センター運営費用）や預金保険料の減少、および人件費の減少等により、36 億円減少（2.06%減）となりました。

以上を主な要因として、業務純益は 60 億円増加（18.55%増）して 385 億円となりました。

2. 預金の状況 (表2)

預金残高(譲渡性預金を含む。以下同じ。)は、6,355億円増加(3.22%増)して20兆3,612億円となりました。

流動性預金は3,730億円増加(6.48%増)して6兆1,274億円、定期性預金(譲渡性預金を含む)は2,624億円増加(1.87%増)して14兆2,338億円となりました。

3. 貸出金の状況 (表2)

貸出金残高は8,109億円増加(6.36%増)して13兆5,563億円となりました。

預貸率(期末)は貸出金(分子)の増加率が預金(分母)の増加率を上回ったため1.96ポイント上昇して66.57%となりました。

4. リスク管理債権等 (表3-1) (表3-2)

(1) リスク管理債権額

2019年3月末におけるリスク管理債権額(注)は22億円増加(2.90%増)して784億円となりました。

貸出金に占める割合(リスク管理債権比率)は0.02ポイント改善して0.57%となりました。

(注) 破綻先債権、延滞債権、3カ月以上延滞債権および貸出条件緩和債権の合計額

(2) 金融再生法に基づく開示債権額

2019年3月末における金融再生法に基づく開示債権額(貸出金以外の与信も対象)(注)は20億円増加(2.60%増)して793億円となりました。

与信総額に占める割合は0.03ポイント改善して0.58%となりました。

(注) 破産更生債権、危険債権および要管理債権の合計額

5. 主要利回等 (表4)

貸出金利回は0.07ポイント低下して1.43%、預金利回は前年度と変わらず0.05%となりました。

預金貸出金利鞘(貸出金利回-(預金利回+経費率))は0.03ポイント縮小して0.52%となりました。

総資金利鞘(資金運用利回と資金調達原価率との差)は0.01ポイント拡大して0.23%となりました。

以上